

# 昭和46年度学校基本調査

## 卒業後の状況調査の結果について

県統計課人口学事統計係

### 1 調査の概要

この調査は、学校基本調査規則に基づいて、学校に関する基本的な事項のうち、生徒の卒業後の状況を調査し、学校教育行政上の基礎資料を得ようとするものである。

調査の要領ならびに調査結果については下記のとおりである。

なお、この数値は概数であり、後日文部省からの公表をもつて確定となるのであらかじめ了知願いたい。

### 2 調査の要領

#### (1) 調査の期日

昭和46年5月1日現在

#### (2) 調査の範囲

県立の高等学校、市町村立および私立の高等学校市町村立および私立の中学校

### 3 結果の概要

今年の3月に県内の中学、高校を卒業した者は中学では40,959人で、うち男20,747人、女子20,212人と男がわずかに多い。

高校では卒業者28,894人で男13,985人、女14,909人となり女が多くなっている。

これを前年の昭和45年と比べてみると、中学は1,034人、高校では227人それぞれ減少している。次に卒業者を進路別にみると、中学では進学者が最も多く30,393人、ついで就職者の6,637人、就職進学者1,044人、無業者2,849人、その他36人となっている。

高校では就職者17,849人、進学者5,355人、就職進学者230人、無業者5,153人、その他307人で、中学卒業者では上級学校への進学が7.6%と高まっている反面、高校卒業者19%にすぎない。また、高校、中学とも卒業者

の総数が前年よりも残っているにもかかわらず、進学者は共に増加しており、上級の学校を望む意識が高まってきているといえる(表1、表2参照)

表1 中学校卒業者の卒業後の状況

区分	卒業者 総数	進学者	就職者	就職 進学者	無業者	その他	進学 率
昭45年	41,993	29,542	8,242	1,168	2,954	87	73.1
昭46年	40,959	30,393	6,637	1,044	2,849	36	76.8
増減 (△印は減)	△1,034	851	△1,605	△124	△105	△51	3.7

<進学率には就職進学者を含む>

#### (1) 中学校

##### (ア) 進学者

進学者の総数(就職進学者を含む)は、31,437人で、男15,382人、女16,055人となっており前年と比べて727人の増加である。進学率も前年の73.1%から今年は76.8%と3.7%の伸びを示し、伸び率も前年の2.9%を上回っている。しかし、全国平均から見るとまだまだ低い水準にある。

(昭和45年の全国平均は、82.1%である。)

##### (イ) 就職者

就職者の総数(就職進学者も含む)は7,681人で、男が4,037人、女3,644人と前年に比べて1,729人減少した。中学卒業の就職者の減少傾向は、昭和38年をピークにして、以来、毎年減少しており進学率が高くなるにつれてまだ続くものとみられる。次に就職者を職業別に見ると、技能工・生産工程作業者が最も多く5,615人、次いでサービス職業従事者765人、農林業作業者の489人の順となっている。産業別では製造業に従事する者が最も多く4,824人、以下、サービス業の805人、建設業の574人、卸売業小売業493人となっており、第1次産業に就職した者は502人で6.5%、第2次産業は5,431人で70.7%、第3次産業は1,576人で20.5%となり、第2次産業が非常に多い。次に就職先を各都道府県別にみると、県

内が5,251人、県外は2,430人で県内就職者の方が多い。県外へ就職した者では東京都の1,448人が圧倒的に多く、以下埼玉県265人、神奈川県237人と関東近県への就職が大部分で、本県を含めた関東1都6県で7,565人となり就職者全体の98.5%を占めている。(表2参照)

表2 中学校卒業者の就職先状況

区 分	昭和45年		昭和46年	
	就職者数	%	就職者数	%
総 数	9,410	100.0	7,681	100.0
関 東	9,282	98.6	7,565	98.5
茨 城	6,444	68.5	5,251	68.4
栃 木	160	1.7	152	2.0
群 馬	14	0.1	15	0.2
埼 玉	309	3.3	265	3.4
千 葉	184	2.0	197	2.6
東 京	1,821	19.3	1,448	18.8
神 奈 川	350	3.7	237	3.1
そ の 他	128	1.4	116	1.5

表3 高等学校卒業者の卒業後の状況

区 分	卒業者総数	進学者	就職者	就職進学者	無業者	その他	進学率
昭和45年	29,121	4,862	18,353	158	5,547	201	17.2
昭和46年	28,894	5,355	17,849	230	5,153	307	19.3
増減 (△印は増)	△227	493	△504	72	△394	106	2.1
減							

<進学率には就職進学者を含む>

(2) 高等学校

(ア) 進学者

今年の3月高校を卒業し、上級の学校に進学した者の総数(就職進学者も含む)は5,585人で男2,773人、女2,812人となっており。女子が僅かに多い。なお、今年の進学者は前年の5,020人と比べて565人増えて進学率も19.3%となり、前年の17.2%を2.1%上回り、今後もまだ伸びるものと思われる。(昭和45年の進学率全国平均は24.3%)

次に進学者を進路別にみると大学への進学が3,376人(男2,523人、女853人)、短期大学が2,042人(男156人、女1,886人)、大学、短大の別科、高校の専攻科が145人(男94人、女51人)、国立養護教諭養成所22人(女のみ)となつている。なお卒業生総数のうち大学への入学志願者は5,752人、短期大学は2,263人である。

(イ) 就職者

就職者総数(就職進学者も含む)は18,079人で、男8,680人、女9,399人となつている。これは前年の18,511人に比べて432人減つているが、進学率の伸びとともに今後も減少するものと思われる。次に就職者を職業別にみると、事務に従事する者が6,059人で最も多く、つぎが技能工・生産工程作業で5,191人、販売従事者3,135人の順となつている。これらの順位は中学卒業者と大きな違いがあり、中学の場合、女子は技能工・生産工程作業に従事する者が女子全体の67.6%と高い割合を占めているのに対し、高校では、事務と販売に従事する女子が全体の73.0%というように、女子の就職状況の違いによるものである。産業別にみると製造業の6,594人、卸売業小売業の4,393人、金融保険業1,498人、サービス業1,358人、公務1,365人等が主な従事産業である。また1次、2次、3次別にみると、第1次産業では1,157人(6.4%)で、このうち農業科卒業者が過半数を占めている。第2次産業では6,993人38.7%、第3次産業9,716人53.7%、その他213人1.2%と第3次産業に従事する者が多く、中学卒業者の場合と違つた結果を示している。次に就職先を各都道府県別にみると、県内への就職が11,671人、県外、その他が6,408人である。県外の内訳は東京都が4,339人、ついで千葉県の659人、神奈川県の544人、栃木県の329人などで、中学卒業者同様関東近県への就職が大部分で、なかでも東京都に就職する者が圧倒的に多い。

(表4参照)

表4 高等学校卒業者の就職先状況

区 分	昭和45年		昭和46年	
	就職者数	%	就職者数	%
総 数	18,551	100.0	18,079	100.0
関 東	18,292	98.6	17,886	98.9
茨 城	11,899	64.1	11,671	64.6
栃 木	317	1.7	329	1.8
群 馬	22	0.1	23	0.1
埼 玉	309	1.7	321	1.8
千 葉	721	3.9	659	3.6
東 京	4,390	23.7	4,339	24.0
神 奈 川	634	3.4	544	3.0
そ の 他	259	1.4	193	1.1